

女川原子力発電所第2号機 工事計画審査資料	
資料番号	02-補-E-20-0720-1_改0
提出年月日	2021年4月2日

補足-720-1 【構造強度評価における評価対象部位の選定について】

2021年4月

東北電力株式会社

補足説明資料

工認添付書類	補足説明資料
VI-3-別添 2-1-1 原子炉補機冷却海水ポンプの強度計算書	補足-720-1 構造強度評価における評価対象部位の選定について
VI-3-別添 2-1-2 高圧炉心スプレイ補機冷却海水ポンプの強度計算書	
VI-3-別添 2-1-3 復水貯蔵タンクの強度計算書	
VI-3-別添 2-1-4 鋼製ハッチの強度計算書	

## 1. 概要

機器の構造強度評価における評価対象部位の選定について説明する。

## 2. 評価対象部位の選定について

構造強度評価における評価対象部位の選定については、①、②の選定を基本とし、その他は機器形状等に応じて選定している。

- ①風荷重により、荷重作用点から離れており、大きなモーメントを受ける部位(基礎ボルト等)
- ②降下火砕物等により荷重を受ける主要部位
- ③規格式により、対象が定められている部位
- ④その他

表 1 に構造強度評価対象選定一覧を示す。

表 1 構造強度評価対象選定一覧 (1/3)

添付書類	施設名称	評価対象部位	応力の種類	選定理由	①	②	③	④	備考		
VI-3-別添 2-1-1 原子 炉補機冷却海 水ポンプの強 度計算書	原子炉補機冷 却海水ポンプ	電動機台	曲げ	降下火砕物等堆積による鉛直荷重は、最も多く降下火砕物が堆積する電動機上部の外扇カバー及び主回路用端子箱等を介して支持している電動機フレーム及び電動機台に作用し、電動機台を介して基礎ボルトに伝達する。また、風（台風）による水平荷重は、外扇カバー、空気冷却器、電動機フレーム及び電動機台に作用し、電動機台を介して基礎ボルトに伝達する。さらに、ポンプのスタスト荷重は全て電動機フレーム及び電動機台に作用する。 このことから、降下火砕物等堆積による鉛直荷重に対しては、電動機フレーム、電動機台、外扇カバー及び基礎ボルトを評価対象部位とする。また、風（台風）による水平荷重に対しては、電動機フレーム、電動機台及び基礎ボルトを評価対象部位とする。	—	—	—	○	風荷重に対し、ポンプの主要部材である電動機台について、曲げ応力に対する健全性を確認		
		電動機台	圧縮		—	—	—	—	—		
		電動機フレーム	曲げ		—	—	—	—	—	○	風荷重に対し、ポンプの主要部材である電動機フレームについて、曲げ応力に対する健全性を確認
		電動機フレーム	圧縮		—	—	—	○	—	—	
		基礎ボルト	引張 せん断 組合せ		○	—	—	—	—	—	
		外扇カバー	曲げ		—	—	—	—	○	—	

表 1 構造強度評価対象選定一覧 (2/3)

添付書類	施設名称	評価対象部位	応力の種類	選定理由	①	②	③	④	備考		
VI-3-別添 2-1-2 高圧 炉心スプレイ 補機冷却海水 ポンプの強度 計算書	高圧炉心ス プレイ補機 冷却海水ポ ンプ	電動機台	曲げ	降下火砕物等堆積による鉛直荷重は、最 も多く降下火砕物が堆積する電動機上部 の雨よけカバーを介して支持している電 動機フレーム及び電動機台に作用し、電 動機台を介して基礎ボルトに伝達する。 また、風（台風）による水平荷重は、電 動機フレーム及び電動機台に作用し、電 動機台を介して基礎ボルトに伝達する。 さらに、ポンプのスタスト荷重は全て電 動機フレーム及び電動機台に作用する。 このことから、降下火砕物等堆積による 鉛直荷重に対しては、電動機フレーム、 電動機台、雨よけカバー及び基礎ボルト を評価対象部位とする。また、風（台風） による水平荷重に対しては、電動機フレ ーム、電動機台及び基礎ボルトを評価対 象部位とする。	—	—	—	○	風荷重に対し、 ポンプの主要部 材である電動機 台について、曲 げ応力に対する 健全性を確認		
		電動機台	圧縮		—	—	—	—	—	—	—
		電動機フレーム	曲げ		—	—	—	—	—	○	風荷重に対し、 ポンプの主要部 材である電動機 フレームについ て、曲げ応力に 対する健全性を 確認
		電動機フレーム	圧縮		—	—	—	—	—	—	—
		基礎ボルト	引張 せん断 組合せ		○	—	—	—	—	—	—
		雨よけカバー	曲げ		—	—	—	—	○	—	—

表 1 構造強度評価対象選定一覧 (3/3)

添付書類	施設名称	評価対象部位	応力の種類	選定理由	①	②	③	④	備考
VI-3-別添 2-1-3 復水 貯蔵タンクの 強度計算書	復水貯蔵タンク	屋根板	一次一般膜 一次膜＋一次曲げ	降下火砕物等の堆積による鉛直荷重は、 降下火砕物等が堆積する屋根板及び屋根 板に接続する胴板（上部）に作用する。 また、風荷重は、胴板を介して胴板（下 部）及び基礎ボルトに作用する。 このことから、屋根板、胴板（上部）、胴 板（下部）及び基礎ボルトを評価対象部 位とする。	—	○	—	—	
		胴板（上部）	一次一般膜 一次膜＋一次曲げ		—	○	—	—	
		胴板（下部）	一次一般膜 組合せ一次 座屈		—	—	○	—	
		基礎ボルト	引張 せん断 組合せ		○	—	—	—	
VI-3-別添 2-1-4 鋼製 ハッチの強度 計算書	鋼製ハッチ	上蓋	曲げ	降下火砕物等堆積による鉛直荷重は、地 上に露出した鋼製ハッチの上蓋に作用 し、鉄筋コンクリート造の頂版に伝達す る構造とする。 このことから、降下火砕物等堆積による 鉛直荷重に対しては、鋼製ハッチの上蓋 を評価対象部位とする。	—	○	—	—	